

2011年9月5日 ITCN 夜の集会メッセージ

「それって後退？それとも前進？」<舟が出るぞ〜>

聖書箇所：マルコによる福音書4章35節〜41節

35：さて、その日のこと、夕方になって、イエスは弟子たちに、「さあ、向こう岸へ渡ろう」と言われた。

36：そこで弟子たちは、群衆をあとに残し、舟に乗っておられるままで、イエスをお連れした。他の舟もイエスについて行った。

37：すると、激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水でいっぱいになった。

38：ところがイエスだけは、とものほうで、枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして言った。「先生。私たちがおぼれて死にそうでも、なんとも思われませんか。」

39：イエスは起き上がって、風をしかりつけ、湖に「黙れ、静まれ。」と言われた。すると風はやみ、大なぎになった。

40：イエスは彼らに言われた。「どうしてそんなにこわがるのです。信仰がないのは、どうしたことです。」

41：彼らは大きな恐怖に包まれて、互いに言った。「風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」

メッセージ骨子：

<序論> 原発論議で『科学に後戻りはない』とある学者が言いました。一旦開発したからには「使わない」選択肢は無く、安全性を高めて「使いこなす」だけが人間に与えられている道だということです。科学に後戻りがあるかどうかという議論も興味のあるところですが、我々の信仰、或は人生に『後戻り』『逆回転』はあるのでしょうか？それはどのような場面でおこりうるのでしょうか？

<ポイント1> 「昔の環境での揺り返しに注意しよう」

ペテロは元漁師。イエス様に舟を出すように依頼されたとき、腕の見せ所と喜んだに違いありません。でも昔の環境に身を置く時、私たちの心まで昔の状態、場合によっては信仰を持つ前のレベル逆戻りすることがあります。田舎に帰ったら、親に対して子供っぽい態度が出てしまうのもその一つです。その時に感じる「揺さぶり」、顔を出す「古い自分」は実はサタンなのです。イエス様と私たちの間に割って入ろうとサタンは常にすきを伺っています。

<ポイント2> 「得意な分野での揺り返しに注意しよう」

ペテロが舟をこぎ出してしばらくすると、突然の嵐に見舞われます。本来、漁師のペテロにとっては嵐などお手の物。でも結局こずって、最後に大慌てでイエス様に助けを求めます。「黙れ、静まれ」とイエス様に一喝された相手は、海と風とそしてペテロでした。得意な分野での失敗はこたえますが、あなた得意分野とは、言い換えればこれまでずっと主の祝福を受け続けてきた分野。それゆえに思い切って委ねる信仰を持ちたいものです。

<ポイント3> 「仕上げの段階での揺り返しに注意しよう」

人間の欲望は、年齢を重ねるにつれて、しばむどころか、いよいよコントロールがむずかしくなるところがあります。人生の夕方になってかぶる波はこたえますが、この「波」は神の警告であると同時に恵みです。これまで受けてきたみ守りと祝福を振り返り、もう一度感謝する機会となるからです。

<まとめ> 今イエス様は、向こう岸へ渡ろうと声をかけておられます。あなたはイエス様と漕ぎ出しますか？それとも岸辺に残りますか？イエス様はすでに船上。岸には居られません。実は嵐の中を通ることによって、初めて聖書のみ言葉が自分のものになるのです。そして豊かな実を結ぶのです。さあ、人生の高みを目指して、山頂の絶景を目指して、イエス様と共に一歩踏み出しませんか。